



市では、持続可能な社会を目指してSDGsの取り組みを進めています。今号では、世界共通の17の国際目標のうち、ゴール2の達成に向けた市の取り組みや一人一人ができることなどを紹介します。



ゴール2 飢餓をゼロに

世界には、飢餓で苦しむ人が大勢います。飢餓で苦しむ人は途上国に多く、自然災害や紛争などが飢餓の原因となっています。その他、途上国では農業技術が低く、十分な食料の生産・確保ができないことも原因となっています。

日本を含む先進国では、相対的貧困(※)世帯において食費以外の生活費にお金を使うことが原因で、子どもの食事量や食事の回数が少なくなり、必要な栄養が足りずに心身に影響を及ぼすことが問題となっています。このように必要な栄養が足りていない場合も飢餓に含まれます。

ゴール2「飢餓をゼロに」では、飢餓と栄養不足の問題を解消するとともに、環境を守りながら安定した農産物の生産供給を確保するため、持続可能な農業を進めることを目指しています。

※相対的貧困とは、特定の地域社会の大多数の標準と比べて貧しい状態のこと

達成に向けた市の取り組み

市では、地域の農産物などの生産活動を推進するため、地元産食材を使用した学校給食を提供する「食と農」安全・安心推進事業や、保育園・幼稚園の給食やおやつに地元産食材を提供する地産地消推進事業を実施しています。

また、市内の農家が野菜を栽培するために行う土壌診断の経費を補助するおいしい十和田野菜の健康な土づくり事業など、環境にやさしい農産物の生産供給に取り組んでいます。

【一人一人ができること】

飢餓をゼロにするために私たちができることは、まず世界や日本での飢餓・食料生産の状況を知ることです。

また、食べ物を無駄にしないためには何ができるかを考え、行動に移すことです。食材は無駄なく使う、食べ残しは捨てずに別の料理に作り替えるなど、家庭でできることから始めてみませんか。



Arts Towada 十周年記念「インター+プレイ」展 第3期 問題行動トリオパフォーマンス

第3期では、雪景色の美術館で作品と「インタープレイ」します。21日は、野村誠が令和元年に行った「十和田のまちのピアノをめぐる ちいさなツアー」で生まれた曲などを演奏し、佐久間新と砂連尾理がダンスで応答します。

とき・ところ 3月20日(日) 現代美術館 「ビジュツセッシュ」
21日(月) 市民文化センター 「トワダノワダイ」
いずれも午後2時～3時

定員 各回15人程度(先着順)



問題行動トリオ《三本木散歩》2021年
"Arts Towada 十周年記念「インター+プレイ」展"
撮影：小山田邦哉

3月10日(木)は現代美術館常設展示市民無料デー

マイナンバーカード、免許証や保険証など住所が確認できるものを受付に提示してください。

市民無料デーに合わせて、次のイベントを開催します。

《対話型鑑賞プログラム げんびさんぽ》

美術館スタッフと一緒に、スウ・ドーホー《コーズ・アンド・エフェクト》を鑑賞します。

とき：午後2時～3時 定員：10人(事前予約制・先着順)

※企画展イベントへの参加には、企画展チケットが必要です。